

# ～輝きの子育て～

## 躑（しつけ）の三か条

雑誌の記事のスクラップを整理していたら躑(しつけ)についての記事があった。

平凡なことですが、躑(しつけ)の基本であると思うので紹介したい。哲学者、教育者の森 信三氏が提唱しているものです。家庭教育の基本は「躑(しつけ)」から始まり、これが人間教育のスタートとなります。

躑の基本は三つの事を徹底すれば、それだけで人間教育が軌道に乗ると言っています。

第一 朝必ず親に挨拶する子にすること

第二 親に呼ばれたら必ず「ハイ」とはっきり返事のできる子にすること

第三 履物を脱いだら必ずそろえ席を立ったら必ずイスを入れる子にすること

平凡なことですが、深い意味があるのです。

朝の挨拶によって前向きな姿勢や「ハイ」と言う返事で素直さが養われます。

(「ハイ」という素直な心)

履物を揃え、イスを入れる習慣は人生でも仕事でも大切な後始末のしっかりできる子になります。

この躑はお説教では決して身に付かないということです。

挨拶をする子にするためには、まず親から我が子に挨拶をすることです。

こちらから「おはようございます」と言えば子供も「おはようございます」と応えます。

最初は子供も面食らい、ボソボソとした挨拶しか返ってこないかもしれませんが、それでも親は根気よく続けていくうちに、しっかりとした挨拶が返ってくるようになります。

「ハイ」の返事を躑けるには、まず親が「ハイ」とはっきりした返事をするように努めることです。

子供は親の様子をしっかりと見ています。親が呼び掛けに、いつも素直に応じる姿を見れば、子供も返事の大切さを実感して、それに倣うようになるものです。

自ら模範を見せることの大切さは、履物を揃えること、イスを入れることについてもいえます。躑にも適期があり、できれば三つの躑を小学校へ入学するまでに身につけさせたいものです。

片野 英司



「致知」2010年7月号

寺田一清さんが語られた森信三

「父親のための人間学」の記事より。

森 信三(1896年～1992年)

哲学者、教育者 京都帝国大学 哲学科卒  
主な著書に「修身教授録」がある。